第18回地方公務員共済資金運用委員会

平成29年11月21日（火）

地方公務員共済組合連合会

午前10時00分 開会

○合田企画管理課長 ただいまから第18回地方公務員共済資金運用委員会を開会いたします。

なお、本日でございますけれども、井手委員、俊野委員、藤沢委員におかれましては、所用のためご欠席されております。

続きまして、本日の配布資料の確認をさせていただきます。

まず、冒頭の一番上に次第がございます。その次に座席表がございます。それから、資料1-1から資料1-6としまして、各積立金の第1四半期、第2四半期の運用状況の資料がございます。資料2-1、資料2-2としまして、第1四半期、第2四半期のリスク管理状況の資料でございます。

以上でございますけれども、不足はございませんでしょうか。ありがとうございます。

続きまして、前回の委員会の議事録の確認をお願いいたします。委員の皆様には議事録案をお配りしておりますので、そちらをご覧ください。

なお、本議事録案につきましては、発言された委員にご確認の上、発言の趣旨を損なわない範囲で加筆・訂正を行っております。

本議事録につきまして、こちらの内容でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、第17回地方公務員共済資金運用委員会の議事録については、これで確定したいと思っております。なお、本議事録につきましては、委員会の開催日から7年後に公表することとしておりますので、ご了承願います。

では、議事進行に入らせていただきます。以後の議事進行につきましては、若杉座長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○若杉座長 皆さん、おはようございます。

それでは、早速議事に入りますが、進行につきましてはご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の委員会の議事は、「平成29年度第1四半期及び第2四半期の各積立金の運用状況（地共済）」及び「平成29年度第1四半期及び第2四半期の各積立金のリスク管理状況（地共済）」の2本となっております。

始めに、議事1「平成29年度第1四半期及び第2四半期の各積立金の運用状況」について、合田企画管理課長より説明をお願いします。よろしくお願いいたします。

○合田企画管理課長 それでは、第1四半期及び第2四半期の管理及び運用実績の状況につきましてご説明いたします。

皆様のお手元に資料1-1から1-3の第1四半期と、資料1-4から1-6、第2四半期の資料をお配りしておりますけれども、第1四半期の数字も記載しております資料1-4から1-6の第2四半期の資料でご説明させていただきたいと思っております。

それでは、まず始めに資料1-4、厚生年金保険給付積立金の資料をご覧ください。厚生年金保険給付積立金の第2四半期の運用利回りは時価ベース2.89%のプラス、運用収益額は5,910億円のプラス、運用資産残高は21兆2,370億円となっております。

4ページをご覧ください。始めにまとめて上半期、第1四半期と第2四半期におけます市場環境について簡単にご説明をさせていただきます。

国内債券につきましては、年度開始以降、10年国債利回りの金利は期中で海外金利に連動して上下していたものの、第1四半期末においては期初からやや上昇。その後、第2四半期においては期初の水準付近まで低下しておるところでございます。

国内株式につきましては、こちらも年度開始以降、好調な国内の企業業績等によりまして株価は上昇していましたが、第2四半期以降、北朝鮮情勢の緊迫化等によりまして株価は低下しておりましたが、9月中旬以降は米国株の上昇等により株価は上昇しております。

外国債券につきましては、年度開始以降、米国10年国債利回りの金利は期中で上下しておりましたが、第1四半期末におきましては低下、第2四半期末においては年内の追加利上げ観測の強まりなどにより上昇しております。ドイツ10年国債利回りの金利も同様に期中で上下していたものの、第1四半期末においては上昇、第2四半期末においては第1四半期末からほぼ横ばいとなっております。

外国株式につきましては、年度開始以降、米国株式につきましては好調な経済指標や企業業績に支えられまして上昇しております。ドイツ株式につきましてはユーロ高が重くなる、そういった展開も続きましたけれども、好調な経済指標に支えられまして上昇しているところでございます。

外国為替につきましては、ドル/円は第2四半期までやや円安、ユーロ/円は円安が進行しております。

続きまして、6ページの資産構成割合をご覧ください。国内債券につきましては昨年度末39.2%から第1四半期37.1%、第2四半期末34.6%と減少しております。

国内株式につきましては、昨年度末23.1%から第1四半期末にかけて24.7%と上昇しましたが、第2四半期末には24.3%に低下しております。

外国債券につきましては、こちらは昨年度末12.5%から第1四半期末13.4%、第2四半期末

13.8%と上昇しております。

外国株式につきまして、昨年度末20.2%から第1四半期末21.3%、第2四半期末21.5%と上昇しているところでございます。

次に、7ページの運用利回りをご覧ください。時価ベースで第1四半期につきましては、内外株式市場の上昇等によりまして、収益率は全体で3.40%プラスとなっております。資産別では国内債券0.08%、国内株式6.86%、外国債券4.80%、外国株式5.51%となっております。

次に、第2四半期ですけれども、収益率は全体で2.89%とプラスとなっております。資産別では国内債券0.35%、国内株式5.13%、外国債券2.45%、外国株式5.56%となっております。

続きまして、9ページの運用収入額をご覧ください。内外株式市場の上昇等によりまして、時価ベースで第1四半期の総合収益額は6,724億円、第2四半期は5,910億円といずれもプラスとなっております。

次に、11ページの資産額をご覧ください。第1四半期末の資産総額は株価ベースで20兆1,778億円、第2四半期末は21兆2,370億円となっております。

以上で資料1-4の説明を終わらせていただきます。

続きまして、資料1-5、経過的長期給付積立金についてご説明をさせていただきます。第2四半期の運用利回りですけれども、時価ベース2.79%のプラス、運用収益額は5,997億円のプラス、運用資産残高は22兆389億円となっております。

続きまして、6ページの資産構成割合をご覧ください。国内債券につきましては昨年度末42.7%から第1四半期40.6%、第2四半期39.1%と減少しております。

国内株式につきましては、昨年度末24.0%から第1四半期末25.3%と上昇しましたけれども、第2四半期末もこちら25.3%というところで変動はございません。

外国債券につきましては、昨年度末11.9%から第1四半期末12.6%、第2四半期末13.2%と上昇しているところでございます。

外国株式につきましてはですけれども、昨年度末19.9%から第1四半期末20.7%、第2四半期末21.3%と上昇しているところでございます。

次に、7ページの運用利回りをご覧ください。時価ベースで第1四半期末の収益率は全体で3.37%のプラスとなっており、資産別では国内債券0.06%、国内株式6.83%、外国債券4.82%、外国株式5.49%となっております。第2四半期の収益率は全体で2.79%のプラスとなっており、資産別では国内債券0.09%、国内株式5.1%、外国債券2.45%、外国株式5.55%となっております。

続きまして、9ページの運用収入額をご覧ください。先ほどもご説明させていただきましたが、内外株式市場の上昇等によりまして、時価ベースで第1四半期の総合収益額は7,081億円、第2四半期は5,997億円といずれもプラスとなっております。

次に、11ページの資産額をご覧ください。第1四半期末の資産総額は時価ベースで21兆4,703億円、第2四半期末は22兆389億円となっております。

以上で資料1-5の説明を終わらせていただきます。

続きまして、資料1-6、退職等年金給付積立金についてご説明をさせていただきます。第2四半期の運用利回りですけれども、簿価ベースで0.14%のプラス、運用収益額が7億円のプラス、運用資産残高は5,388億円となっております。

続きまして、6ページの資産構成割合をご覧ください。退職等年金給付積立金、新3階の基本ポートフォリオにつきましては国内債券100%となっておりますので、実際に94.9%が債券での運用となっております。

次に、7ページの運用利回りをご覧ください。退職等年金給付積立金で保有します国内債券につきましては、満期持ち切りを前提とするため、簿価評価としているところでございます。時価ベースの数値につきましては、それぞれの参考をご覧くださいいただければと思います。運用利回りについては第1四半期、第2四半期とも収益率全体で0.14%とプラスとなっております。

次に、9ページの運用収入額をご覧ください。簿価ベースで第1四半期は6億円、第2四半期末は7億円といずれもプラスとなっております。

次に、11ページの資産額をご覧ください。第1四半期末の資産総額は簿価ベースで4,721億円、第2四半期末においては5,388億円となっております。

駆け足でございましたが、以上で平成29年度第1四半期及び第2四半期の管理及び運用実績の状況につきまして説明を終わります。

○若杉座長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明につき、ご質問等がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

では、この議事1につきましては以上としまして、次に議事2に移りたいと思います。

平成29年度第1四半期及び第2四半期の各積立金のリスク管理状況（地共済）について、藤原総括投資専門員より説明をお願いいたします。よろしく申し上げます。

○藤原総括投資専門員 それでは、お手元の資料ですけれども、こちら先ほどと同じように第2四半期の資料を中心に説明いたしたいと思っておりますので、資料2-2をご用意いただき

く存じます。

こちらの資料は2つのシートを1つのページにまとめてございます。

それでは、内容に移らせていただきます。平成29年度の第1四半期及び第2四半期の厚生年金保険給付積立金の資産構成割合ですけれども、地共済厚年1シートの上段の表、実績ポートフォリオの構成割合をご覧くださいますと、前四半期末が第1四半期の状況、その隣が第2四半期末の状況となっております。各数値につきましては、先ほど運用状況でご説明したものと同一となっております。

その下にあるグラフをご覧くださいますと、こちらには過去12カ月の4資産の各推移、資産構成割合の状況と中心値からの乖離状況をお示ししてございます。国内債券、外国債券、外国株式は昨年10月から中心値に近づいているという傾向となっており、国内株式はほぼ中心値近くで推移していることがご確認いただけるかと存じます。

次に、地共済厚年2シートの下段のところに、推定トラッキングエラーをお示ししております。前四半期末は1.06%、第2四半期末が0.46%となっております。下のグラフをご覧ください。一番上のグラフが資産全体の推定トラッキングエラーの推移でございまして、昨年10月から減少しております。また、個別資産につきましては、それぞれの資産ベンチマーク対比の推定トラッキングエラーをお示ししているところでございますが、この1年、ほぼ横ばいとなっております。

裏面にお進みください。地共済厚年3シートには、債券のデュレーションをお示ししております。シート上段の表をご覧くださいますと、国内債券の実績ポートフォリオにつきましては、前四半期末は7.71年、第2四半期末が7.74年、ベンチマークとの乖離は大体マイナス1.1年程度となっております。

また、外国債券の実績ポートフォリオにつきましては、前四半期末が6.86年、第2四半期末が6.84年となっております、ベンチマークとの差異は、マイナス0.1年程度となっております。

地共済厚年3シートの下に、デュレーションの対ベンチマーク乖離幅につきましては、過去12カ月の推移をお示しております。薄い折れ線が外国債券ですが、ほぼゼロに近いところでこの12カ月推移しています。その下にある濃い折れ線は国内債券ですが、徐々にベンチマークに近づいているというのがこの12カ月の動きとなっております。なお、この国内債券のベンチマークとの差異がマイナスになっておりますのは、この後に記載の国内債券指標も同様ですが、過去の機構債の運用が影響しているところでございます

地共済厚年3シートの真ん中の表、国内債券／償還期限別時価ウェイトをご覧ください。中期ゾーン3年から7年、さらに長期ゾーン7年から11年のベンチマークとの差異がプラス方向の乖離となる一方、超長期の11年から15年以下の3つのゾーンは、ベンチマークとの差異が、それぞれマイナス1.9%、マイナス0.1%、マイナス3.5%と、超長期ゾーンのウェイトが低くなっております。

次のシート、地共済厚年4の国内債券の種別保有状況をご覧ください。国債がベンチマークとの差異でマイナス35.8%、地方債がプラス31.2%となっております。

さらにその下の表、国内債券の信用格付け別保有状況につきましてですが、こちらは前回の委員会でご意見賜りまして、今回より追加した表でございます。こちらの表の国内債券につきましては、国債、地方債、政府保証債を除いた事業債等の格付け別の保有比率をお示ししているところございまして、いずれの格付けもベンチマークとの差異はプラス方向の乖離となっておりますが、主にアクティブファンドが国債等のかわりにこれらの事業債等を保有している影響が示されており、どちらかといえば上位の格付けのものが保有されていることをご確認いただけるかと存じます。また、その隣に格付け別のデュレーションの状況をお示ししておりますけれども、いずれもベンチマークと比べると短めのデュレーションとなっております。こちらにつきましては、第1四半期も同じような傾向となっております。

資料の次のページにお進みいただき、地共済厚年5をご覧ください。シート上段のところ、外国債券の通貨別の保有状況ですけれども、こちらはこれまでと傾向が変わっておりませんでして、ユーロのベンチマークとの差異がマイナス1.5%となっており、ユーロが比較的lowという状況が続いています。

また、中段のところ、外国債券につきましても信用格付け別の保有状況、保有比率の状況とデュレーションの状況を今回より追加いたしました。外国債券につきましては国債も含んだ外債全体の状況でございまして、左側の保有比率をご覧くださいますと、上位のAAA/AAのところはベンチマークとの差異でマイナス4.3%、Aが2.9%、BBBが1.0%でございます。また、デュレーションにつきましては、その隣のベンチマークとの差異をご覧くださいますと、いずれもベンチマークに比べるとマイナスという状況をご確認いただけるかと存じます。

ここまですべての債券の状況でございまして、次に地共済厚年6をご覧ください。株式のベータについてですが、こちらはグラフにありますとおり、国内株式、外国株式ともこの12カ月ほぼ1に近い水準で推移しているということが示されております。

裏面にお進みください。地共済厚年7及び8のシートには、内外株式の業種別保有状況を示

しております。地共済厚年7が国内株式の業種別保有状況です。こちらのベンチマークとの差異をご覧くださいますと、どの業種もプラスマイナス0.5%の範囲内となっております。上から3つ目の情報・通信業、さらにその4つ程度下の小売業、サービス業等々、内需個人消費系の業種がオーバーウェイトになっている一方で、上の輸送用機器もしくは銀行業等々が若干のマイナスになっているということが示されております。

地共済厚年8をご覧ください。こちらは外国株式の業種別保有状況ですけれども、情報技術のところではベンチマークとの差異が若干のプラス、それからエネルギーがマイナスといった傾向が、これは第1四半期も同様ですけれども、これが続いている状況でございます。

地共済厚年9にお進みください。これまでは相対リスクをご説明いたしました、こちらはトータルリスクの状況でございます。このバリュエーション・アット・リスクの状況につきまして、下のグラフをご覧くださいますと、薄い折れ線が基本ポートフォリオどおりに運用した場合のバリュエーション・アット・リスク試算値の状況でして、丸のあるほうが実際持っているポートフォリオの状況でございます。基本ポートフォリオベースで運用した場合のバリュエーション・アット・リスク値はだんだん下がっている、すなわちマーケットのボラティリティが低下していることがうかがえます。実際に保有しているポートフォリオはほぼ横ばいとなっております、冒頭の資産構成割合のところでも申し上げましたとおり、内外株式等々のリスク性資産のウェイトを上げてきておりますので、市場のボラティリティが下がっている中で、その影響が加わって、実際のポートフォリオのバリュエーション・アット・リスク値は下げ止まっているという傾向がこちらに示されてございます。

以上が地共済の1・2階部分のご説明でございました。

次の4枚目の資料、こちらは地共済の経過的長期給付積立金の状況でございます。

地共済経過1のシートをご覧ください。実績ポートフォリオの資産構成割合につきましては、第1四半期及び第2四半期の部分は先ほどの運用状況でご報告したとおりでございます。下のグラフをご覧くださいますと、国内債券、外国債券、外国株式はこの12カ月徐々に中心値に近づいてきて、国内株式はほぼ中心値のところまで推移しているという状況をご確認いただけるかと存じます。

資産構成割合がこのように推移しておりますので、次のシート、地共済経過2の上段にお示ししております推定トラッキングエラーにつきましては、前四半期末が1.03%、第2四半期末が0.68%となっており、過去1年の推移は下のグラフのとおりでございます、資産全体のトラッキングエラーは低下傾向、各資産が横ばい傾向というのは1・2階と同様でございます。

さらに裏面をご覧ください。債券のデュレーションにつきましてですが、国内債券の実績ポートフォリオは、前四半期末が7.31年、第2四半期末が7.27年となっております。また、外国債券はそれぞれ6.87年、6.84年となっております。国内債券のベンチマークとの差異はマイナス1.5年から1.6年程度ということで1・2階よりデュレーションが短い状況となっておりますけれども、こちらは機構債の保有の影響が相対的に大きいということでございます。その傾向につきましては、このシート中段の国内債券の償還期限別時価ウェイトをご覧くださいますと、超長期ゾーンのマイナスの度合いが1・2階に比べると大きくなっているところにも表れております。

また、地共済経過4シートにある国内債券の種別の保有状況をご覧くださいますと、国債のベンチマークとの差異がマイナス50%を超える水準となっており、1・2階は30%程度でしたので、先ほど申し上げた機構債の影響が強く出ていることがここにも示されてございます。

その下の信用格付け別の保有状況につきましては、こちらに記載のとおりでございます、AAA/AAの保有比率に係わるベンチマークとの差異がマイナス2.3%、A、BBBがそれぞれ0.4%、0.3%となっております、またデュレーションは1・2階と同様にベンチマークと比べてややマイナスという状況となっております。

地共済経過5へお進みください。外国債券の通貨別の保有状況につきましては、ユーロのベンチマークとの差異がマイナスというところは1・2階と同様の状況でございます。

外債の信用格付け別保有状況、こちら今回より追加いたしましたところがございますけれども、これも1・2階の保有状況と同様でございます。

地共済経過6から8にある、株式の状況につきましては、ベータ及び裏面の業種別保有状況等々、1・2階と同様の傾向でございますので、詳細なご説明はこの場では割愛させていただきます。

地共済経過9シートをご覧ください。バリュー・アット・リスクの12カ月の推移につきましては、グラフでお示ししておりますとおり、実績ポートフォリオと基本ポートフォリオの両者がだんだん近づいておりますけれども、経過が相対的に債券の保有比率が高めである影響等により、実績ポートフォリオの計測値は若干低めとなっております。

最後に、地共済の退職等年金給付積立金の資料をご覧ください。資産構成割合は先ほどのご説明と同じでして、デュレーションは、大体13.8年程度という状況でございます。種別の保有状況としては地方債、機構債等々の保有が中心となっております。

それから、この資料の下段をご覧くださいますと、今回よりこの新3階につきましても、簿

価の状況、時価の状況を追加させていただきました。

第1四半期、第2四半期における積立金のリスク管理の状況のご説明は以上でございます。

○若杉座長 藤原総括投資専門員、ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

喜多委員、どうぞ。

○喜多委員 1つ質問させてください。1・2階の国内債券のデュレーションが傾向的に上がっていているようにグラフでは見受けられますが、これは投資判断等何か背景があるのでしょうか。

○田谷理事 地方公共団体金融機構の機構債のラダー運用をやっておりまして、従来10年ラダーの半分を20年ラダーに変えるということをやりましたので、徐々に積み上がっていく分だけデュレーションが少しずつ上昇している。金利耐性をつけるという判断からこのようなことをいたしております。

○若杉座長 よろしいですか。

ほかにはいかがですか。

竹原委員、どうぞ。

○竹原委員 内外株式の部分で、業種の構成比がこうなっているということは分かるのですが、国内株式の中に例えばオルタナティブなどの新たな取組としてアクティブの代替として入っている部分が多分あると思います。その部分の比率、今アクティブ・パッシブ比率がどのぐらいで、そのアクティブの部分のさらにオルタナティブがどのぐらいの比率になっているかという情報があれば教えていただければと思います。

○若杉座長 その点、私も同じことをお聞きしたかった。乖離はアクティブによるのか、それともパッシブによるのか、併せてご説明をお願いいたします。

○藤原総括投資専門員 まず、こちらの株式のところにつきましては、いわゆる上場株式だけの情報でございまして、オルタナティブの状況につきましては、先ほどの2-2の資料ですと、上段の資産構成割合の一番下のところに、小さい字なのですが、**「うちオルタナティブ資産」**という形でお示しさせていただいております。

○若杉座長 どの資料ですか。

○藤原総括投資専門員 資料2-2の地共済厚年1の上段のところに資産状況、資産構成割合とありまして、国内債券からずっと下に**「うちオルタナティブ資産」**ということで、オルタナティブ資産合計の構成割合を0.2%とお示ししておりますが、まだ占める割合が非常に小さい

こともありまして、ご質問いただいた細かいところは、資料上ではお示ししておりません。

○若杉座長 併せてお聞きしたいのですが、資料2-1の地共済厚年ページ7、先ほどの国内株式の業種別の保有状況ですが、ここでベンチマークとの差がアクティブ運用によるものなのか、本来ならばパッシブのところはほとんどベンチマークと同じで、アクティブのところだけが違うわけですね。その点についても、もし今分かれば、あるいは分からなければ次回で結構ですが。

○藤原総括投資専門員 アクティブ運用でこのような差異が生じております。

○若杉座長 このプラスマイナスはアクティブ運用によるものだと思いますか。

○藤原総括投資専門員 そうです。

○若杉座長 それは確認されているのですね。

○藤原総括投資専門員 特に地共済への影響が大きい地共連の状況につきましては、個別のファンドの状況をもとに同様の傾向が出ていることを確認しておりますので、この傾向というのは個別のファンドの、基本的には個別銘柄の選択によるものかと思えますけれども、それが業種という形で反映されているものでございます。

○若杉座長 公表という形でなく、内輪の資料ということでもよいのですが、アクティブ、パッシブ別にこういうものを時々見せていただきたい。

○藤原総括投資専門員 かしこまりました。

○若杉座長 よろしいでしょうか。

○藤原総括投資専門員 手元では、全体で見ているものですから、そこはまた検討というか。

○若杉座長 全ファンドの合計ということで結構です。

○藤原総括投資専門員 分かりました。

○若杉座長 ほかにいかがですか。蜂須賀委員どうぞ。

○蜂須賀委員 今回から国内債券と外国債券の格付け別のデータをお示しいただきまして、非常に分かりやすくてどうもありがとうございます。外国債券は、国のカントリーリスクとかを反映しているのではないかと思うのですが、国内はAAAからBBBまでの構成割合が出ていて、ベンチマークと比較しているのですが、ベンチマークですとBBBはそもそも0.0%になっていて、このベンチマークと比べる意味がどのぐらいあるのかということもありますが、逆にこれに引っ張られて、例えば本当はBBBをもっと買いたいだけけれども、ベンチマークがゼロなので、この程度におさめているということなのか、実際にいい玉を見つけて買っていると、今の段階では始められたばかりなので、買えるものを買っていくとこういう感じになっ

たということなのか、そこら辺、実態を教えてくださいと思いますので、よろしくお願ひします。

○藤原総括投資専門員 こちらのベンチマークとの差異につきましては、主に国内債券のアクティブファンドにおける個別のファンドの投資行動が集約されて示されているところがございます。その個別ファンドにおいて、それぞれがリスク、リターン等々を判断されているかと思いますが、リスク管理という目線で見ますと、格付け低めの方も買っていますが、デュレーションは短くしてリスク抑制に配慮した投資行動がなされていると考えております。

○若杉座長 そういう説明でよろしいですか。ありがとうございました。

ほかにはいかがですか。

徳島委員、どうぞ。

○徳島委員 いろいろとリスク管理の帳票を充実していただいてありがとうございました。

債券のところでは1点だけご質問申し上げます。地共済の経過的長期給付積立金（旧3階）のところですが、国内債券の償還期限別時価ウェイトに関して超長期の20年超のところは、先ほど機構債だというご説明があり、ここの超長期20年のウェイトがベンチマークに対して8.6%下回っているというご説明を頂きました。この年限はいざとなったら国債を買えば利回りもそれなりの水準があるところですので、むしろここは、将来の負債のキャッシュフロー等を考えて抑制的に運用されていらっしゃるのでしょうか、そういった意図があるのかないのかをお聞かせいただけたらと思います。

○若杉座長 寺岡総括投資専門員、お答えをお願いします。

○寺岡総括投資専門員 運用状況ですので、私からお答えいたします。

先ほど田谷理事からお答えがありましたとおり、機構債で20年債の購入を進めているところですので。全体のベンチマークに対するデュレーションがどうしても10年ラダーですと短いところですので、少しそこは時間をかけて長くしようということで機構債を持っているという状況でございます。20年の国債になりますと若干の利回りがありますが、やはり機構債のほうが上乘の部分があり、国債より有利だと考えております。

それから、旧3階につきましてはのベンチマーク運用分もあります。これらを合算しておりますので、一部アクティブファンドといいますか、委託ファンドの中では長いところには国債を持っているという状況でございます。

以上でございます。

○若杉座長 よろしいですか。

ほかによろしいですか。

川北委員、どうぞ。

○川北委員 数字のことではないのですけれども、リスク管理の体制として、例えばBBBの債券を国内債で買っている。海外も買っている。その銘柄を見て、例えば現時点ですとタカタとか神戸製鋼とかという問題がありますが、そういうものが入っていないのかどうか、そういう銘柄のチェックをどのようにされているのか、運用機関から報告があると思うのですが、それをリスクの観点から問題がありそうなところをチェックされて、それに対して運用機関と意見交換するというをやっておられるのかどうかという観点です。これは株式に関してもそうだと思います。アクティブに運用しているものに関しては、そういう問題がある銘柄の顔を見るという行為が必要になってくると思うのですけれども、そういうことをどういう形でやっておられるのかどうか、少し教えていただければと思います。

○寺岡総括投資専門員 ご指摘の部分でございますけれども、国内株式につきましては全部委託運用でございます。それから、国内債券につきましても、信用リスクのあるところにつきましては基本的には自家運用では手を出しておりませんので委託運用になります。委託運用の管理ですが、運用会社からそういった報告を受けてございます。それからいろんな情報等が出ますと、我々からもそういった状況はどうなっているかということにつきまして照会をかけてございます。その中で個別の中身につきましても、どういった対応方針をとっているかということにつきましては、委託機関に照会して内容をチェックしているという状況でございます。

○若杉座長 よろしいですか。ありがとうございます。

ほかにはいかがですか。

もしなければ、この後の会議もありますので、以上にしたいと思います、よろしいですか。どうもありがとうございました。

これで本日予定しておりました議事が全て終了しました。

事務局から連絡があればお願いいたします。

○合田企画管理課長 それでは、事務局からでございます。

次回の日程、また今回の議事要旨及び議事録の確認につきましては、メールにて委員の皆様にご連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からの連絡は以上でございます。

○若杉座長 では、以上をもちまして、第18回地方公務員共済資金運用委員会を終了いたします。ご協力どうもありがとうございました。

午前10時42分 閉会